

建築主：船橋市

設計：株式会社日本設計

施工：奥村・木村・京成特定建設工事共同企業体

所在地：船橋市夏見台4丁目26番1号

住みなれた地域で再び輝いて暮らす

船橋市立リハビリテーション病院



東側外観 遊歩道より望む

船橋市民の急性期医療を担う市立船橋医療センターに隣接、緑豊かな敷地に建設された回復期リハビリテーション専門病院、市民や医師会からの要望を受けて公設民営で実現した全国的にもめずらしい施設である。

エントランスを入ると、明るく広々としたロビーに面して、美しく機能的なデザインの車椅子や福祉機器の展示された売店、折々にコンサートが開かれるというレストランも、やや無機質な硬い表情の外観、玄関周りの雰囲気とは異なり、ほっと気持ちや和む。ロビーからひろい廊下をまっすぐに進むと、南面からの陽光をいっぱいに取り入れた訓練室に導かれる。リハビリテーションは訓練ではなく『生活の再建』と、一日の生活行為、さまざまな生活場面に対応する理学療法、作業療法、言語療法が、365日絶え間なく提供されている。

病棟は、34床を1ユニットとして専門職のチームが配置され、自宅での生活を目標としての訓練ができるよう、トイレ(右・左勝手)、浴室(障害の違いに対応可能

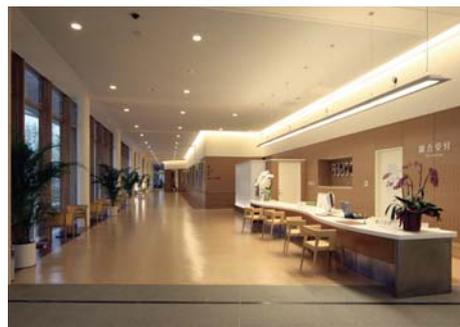
な多様な形式)、扉(自閉式)等に細やかな配慮がされている。医療の場であるが、そこは『病室』というよりは、『暮らしの場』として心配りが感じられる。各ユニットの食堂でくつろぐ人、アルコールで談笑する家族の姿が印象に残った。

保健・福祉・医療制度の変革期に、高齢になっても、障害を持ったとしても、個の尊厳が保たれ、安心して地域で暮ら続けるために、この施設が市民優先の船橋市の中核施設として充実するばかりではなく、近隣市町の好モデルになることを期待したい。

(夏目 幸子)



南側外観 リハビリ庭園より望む



エントランスモール